



日本植物病理学会ニュース 第63号

(2013年8月)

【名誉会員・永年会員の略歴とお話】

名誉会員 道家紀志



1942年4月7日、愛知県に生まれる。1965年名古屋大学農学部卒業、1967年同大学大学院農学研究科修士課程修了、1970年同博士課程単位修得退学。日本学術振興会奨励研究員を経て、1972年名古屋大学農学部助手に就任、1976年文部省在外研究員（米国ケンタッキー大学）、1988年助教授、1989年教

授、1999年同大学院生命農学研究科教授として教育・研究に従事し、2006年定年退職した。

本学会には、48年間所属し、この間、会長・副会長、評議員、大会実行委員長・幹事・プログラム委員長、賞選考委員長・委員、教育プログラム委員長、関西部会長・幹事・部会実行委員長、植物感染生理談話会世話人代表などを務め、学会の運営に尽力した。

大学院時代には、故平井篤造教授の指導のもと、「植物ウイルス感染植物の生理学的研究」を志したが、助手になって故富山宏平教授のもとジャガイモ疫病を対象とした、「宿主特異的感染機構および感染植物の生体防御機構」の研究に入った。退職するまで一貫してこのテーマを追求してきた。特筆できる研究成果は、植物の感染防御反応の始動シグナルとして「オキシダティブバースト」現象を発見し、その発生理機構ならびにその生理的役割を明らかにし、今日の感染防御応答の分子機構の解明の礎を築いたことであろうか。これらが評価され、日本植物病理学会賞(1997)、米国植物病理学会フェロー賞(2000)および日本農学賞・読売農学賞(2005)を受賞し、紫綬褒章(2006)をも受章する幸運に恵まれた。

学会として誇るべき活動の一つに、進歩的で学問意欲に燃えた多くの諸先生方が立ち上げた「植物の感染機構や抵

抗性機構」に関する研究会（夏の学校、1965）が、今日も「植物感染生理談話会」として毎年開催され、自由闊達な議論を通し、お互いが切磋琢磨できる機会と場を提供し、若手を育て、我が国の研究レベルを高い水準に保つ役割を果たしてきたことがある。今日、この植物感染生理学も例外なく遺伝子・分子レベルでの解明を目指しているが、作物を病害の恐怖から開放する技術を確認するのに必須で本質的なテーマである、「植物の病気とは何か？病原体の感染や感染防御とは何か？」に十分応えるものであって欲しいと願っている。

この機会に、ご指導をいただいた多くの諸先生と会員の皆様ならび共同研究を進めてくれた研究室の同僚や卒業生に心より感謝し、会員の皆様の一層のご健闘とご発展を祈念します。

名誉会員 日比忠明



略歴：昭和17年9月24日宮城県生まれ。昭和36年宮城県仙台第一高等学校卒業。昭和41年東京大学農学部農業生物学科卒業。昭和47年同大学院農学系研究科農業生物学専門課程博士課程修了（農学博士）。昭和48～49年オランダ国ワーゲンゲン農科大学分子生物学科客員研究員。昭和50～58年農林省植物

ウイルス研究所研究員・主任研究官。昭和58年～平成5年農林水産省農業生物資源研究所機能開発部微生物機能利用研究室主任研究官・室長・企画調整部企画科長。平成6～16年東京大学農学部・大学院農学生命科学研究科教授。平成16年東京大学名誉教授。平成16～20年玉川大学学術研究所教授。平成20～22年法政大学生命科学部教授。

専門：植物ウイルス学、植物バイオテクノロジー。

受賞：日本植物病理学会賞「植物プロトプラストならび

に電気細胞操作法を用いた植物ウイルス感染実験系の開発に関する研究」。日本植物細胞分子生物学会技術賞「細胞融合および遺伝子組換え技術を用いた耐病性植物の育成」。日本農学賞・読売農学賞「植物プロトプラストの電氣的細胞操作法の開発とその植物ウイルス研究への応用」。

著書：植物ウイルス事典（朝倉書店，1983），植物病理学実験法（講談社，1983），野菜のウイルス病（養賢堂，1984），組織培養の技法（ニューサイエンス社，1984），微生物と農業（全国農村教育協会，1986），病害防除の新戦略（全国農村教育協会，1992），最新バイオテクノロジー全書1（農業図書，1992），植物病理学事典（養賢堂，1995），実験生産環境生物学（朝倉書店，1999），新編農学大事典（養賢堂，2004），農業・農学の展望（東京農大出版社，2004），日本農学80年史（養賢堂，2009），植物ウイルスの事典（朝倉書店，2013）ほか。以上いずれも共著。

学会活動：昭和49～51年庶務幹事長。平成4～22年評議員。平成4～6年庶務幹事長。平成10～12年関東部会長。平成12～14年副会長・会長。平成12～15年日本学術会議会員・植物防疫研連委員長。平成18～21年日本農学会副会長。

所感：これまでの学会活動を振り返って思い出深いことは、浅田会長・土崎会長時代に開始された学会運営体制の近代化路線に沿って、庶務幹事長あるいは会長などとしての立場で、評議員や会員の皆様とご一緒に、JGPPの創刊、学生会員制度の創設、技術士（農業部門・植物保護）の創設などの新たな制度作りのお手伝いのできたことである。学会は専門研究者が学問上相互に切磋琢磨する公の場を提供する学術組織であることはいうまでもないが、それとともに学会や学会誌に発表された業績が他からも評価されて研究者個人の研究費の獲得や処遇にもつながることから、いわば専門家どうしの互助組織的な役割も果たしている。こうした学会の運営を支えているのは本会発足以来連綿と引き継がれてきた会員相互によるボランティア活動である。来る2015年には本会創設100周年を迎えるが、今後ともこうした尊い互助精神が引き継がれて本会が会員とともにますます発展するとともに、わが国の植物病理学が基礎と応用の両面で世界の最先端を担って進化し続けて行くことを期待してやまない。

名誉会員 堀野 修



昭和12年7月高知県生まれ。昭和35年島根県立農科大学（現島根大学農学部）卒業，同37年京都大学大学院農学研究科修士課程修了後，岐阜大学医学部助手を経て，昭和42年農林省東海近畿農業試験場に出向。その後北陸農業試験場，東北農業試験場へ転出。昭和46年「電子顕微鏡によるイネごま葉枯病の病理解剖学的研究」により京都大学から農学博士を授与。同上課題により昭和46年に日本植物病理学会学術奨励賞（第1号）を受賞。京都大学大学院では恩師である故赤井重恭先生より電子顕微鏡を駆使した病理解剖学的研究のご指導をいただいた。記して心から感謝申し上げる。昭和63年京都府立大学農学部教授に採用。平成13年同大学停年退職，名誉教授となる。平成14年「イネの白葉枯病抵抗性機構に関する研究」により日本植物病理学会賞を受賞した。農水省時代には日本及びアジア各国における白葉枯病菌レースの病原性は変異の幅が広く複雑に分化していることを確認し，防除には本病抵抗性による多面的利用を早急に取り入れるべきことを提起した。また，IRRI（国際稲研究所）で育成された白葉枯病の抵抗性品種，IR26の抵抗性の遺伝子解析を行った結果，抵抗性はポリジーン支配による水平抵抗性であり，選抜の対象になりえることを明らかにした。京都府立大学には13年間奉職した。この間，イネの白葉枯病抵抗性機構を解明するため，免疫学的，分子生物学的ならびに電子顕微鏡的研究手法を駆使して解析を行った。菌体外多糖質（EPS）に対する抗体を作成し，蛍光抗体法および免疫電顕法により，感染イネ葉の導管内におけるEPSの存在部位を明らかにし，EPSが直接的な病原因子でない可能性を指摘した。さらに，イネに含まれる抗白葉枯病菌物質，hrp遺伝子群の抵抗性誘導と病原性への関与について新知見を得た。学会活動では，日本植物病理学会評議員，原著編集委員，関西西部会長，国際植物保護会議委員を務めた。また京都市で行われた第18回植物細菌病談話会を主催した。一方，社会的活動としては農水省特別研究プロジェクト評価委員，先端技術を活用した農林水産研究高度化事業研究運営委員会外部有識者，京都府農林水産技術会議バイオテクノロジー研究推進委員，同専門部会委員として，産官学連携の要として役割を果たした。海外での活動は，インドネシアボゴール中央農業研究所，同ボゴール農科大学，IRRIにおける研究指導をはじめ，

JICA の要請によりエジプト米作機械化センター、同国際農業研修センターでの 20 年にわたるイネ病害の講義と病害防除の技術指導を行い、国際的視点で作物保護、栽培技術向上に尽力した。終りに、長年にわたりご指導を頂いた諸先生に心から感謝申し上げ、本学会の益々のご発展を祈念する次第である。

名誉会員 米山勝美



昭和 17 年 11 月 3 日山梨県生まれ、昭和 41 年 3 月東京農工大学農学部植物防疫学科卒業、昭和 43 年 3 月東京大学大学院農学系研究科修士課程修了、同年 4 月理化学研究所に入所。同研究所研究員を経て平成 2 年 3 月退職、同年 4 月明治大学農学部助教授に就任、平成 7 年 4 月同

教授、平成 16 年 10 月農学部長、平成 20 年 4 月明治大学常勤理事を経て平成 24 年 3 月理事任期満了に伴い退職。この間、昭和 54 年 2 月から 2 年間米国ミシガン州立大学農業研究センター客員研究員、昭和 61 年 7 月から 1 年間西ドイツマックスプランク研究所植物育種学研究所客員研究員、平成 11 年 7 月から 4 ヶ月間ブラジル・サンパウロ大学農学部客員教員として研究に従事した。主な研究は、イネ白葉枯病防除薬剤の薬理作用に関する研究で脂質合成阻害剤機構の先陣を切り、昭和 52 年 1 月東京大学より農学博士を取得した。また遺伝子組換えによる病害抵抗性植物の創成研究に取り組み、現茨城大学農学部安西弘行教授と共同で世界に先駆けて細菌病抵抗性植物の作出に成功し、平成 3 年日本農薬学会業績賞（研究）を受賞した。さらに平成 19 年「植物病原菌の病原因子の解明と病害抵抗性植物の創成に関する先駆的研究」で日本農学賞・読売農学賞を受賞した。学会活動では、日本植物病理学会評議員、庶務幹事長、大会委員長、会長等を務め学会運営に尽力した。なお、農薬や芝草病害分野の研究にも取り組み、日本農薬学会評議員、庶務幹事長並びに日本芝草学会評議員、理事、会長等を務めた。植物病理学会長の時には初めての試みとして植物病害診断に不慣れな若手研究者に向けた「植物病害の診断・同定」教育プログラムを新設した。現在も継続されており、研修希望者が多いと聞いて安堵している次第である。最後に、長年に渡り御指導・御支援を頂いた恩師、同僚、学会関係者および研究室の卒業生に心より感謝申し上げるとともに、会員の皆様の益々の御活躍を祈念致します。

永年会員 尾崎武司



昭和 12 年 9 月 27 日岡山県に生まれる。昭和 32 年大阪府立大学農学部に入學。昭和 38 年大阪府立大学大学院農学研究科修士課程を修了すると同時に、同学部助手に採用される。講師、助教授を経て平成 8 年教授に就任。平成 13 年 3 月定年により退職。その間、在外研究員（短期）として、国際会議に出席または

研究調査、講演、情報交換のため、フランス、ドイツ、オランダ、中国、インドネシア等に出張。学会では評議員を 2 期務め、京都（国際会議）、奈良、大阪での学会開催のお手伝いをしたくらいで学会業務にはあまり貢献できず申し訳なく思っています。

研究室採用後は植物ウイルスの同定・分類関係の仕事を始めていたが、黎明期であったこの分野が脚光を浴びるようになったのは、文部省科学研究費の交付（試験研究、農作物ウイルスの同定に関する研究、代表：東京大学明日山秀文、1964）が引き金になったといっても過言ではない。幸いにも恩師高橋実先生の推薦でこのメンバーに加わることが出来、以後同定・分類が研究の中心課題となった。エンドウ茎えそウイルス等新種のウイルスをはじめ数多くのウイルスを同定分離し、性状を明らかにした。これらのウイルスの中でタバコ巻葉ウイルス（TLCV）についてはトマト黄化萎縮病の病原であること、双球状、1 本鎖 DNA を有する新しいタイプのウイルスであること等を明らかにして、学位を取得した。

また、井上忠男先生と共同で万葉集に詠まれた孝謙天皇の歌に見られるヒヨドリバナの黄葉の病原が TLCV であること、ならびにこれが世界最古のウイルス病の記録であることを第 5 回国際ウイルス会議（フランス）で発表し、植物ウイルス学の教科書等で紹介、引用されるようになった。

同学の先輩たちがウイルス病として目に留めながら、半世紀以上経った現在でも同定に至っていないウイルス性病害が幾つかある。その中でツバキの花のウイルス性斑入りは 17 世紀の園芸書にも記載され、先輩達が病原の同定を試みたが、未同定のままである。現在は他分野の研究者にも花粉の稔性低下との関係等について興味を持たれるようになっていく。日本の、しかも植物病理学関係の研究者が思いがけぬ新知見を発表されるようになることを期待したい。

永年会員 周藤靖雄



1937年10月3日東京都生まれ、1943年3月島根県立農科大学(現島根大学生物資源科学部)の林学科を卒業した。直ちに島根県に就職して、島根県林業試験場(のちに改称島根県林業技術センター、現島根県中山間地域研究センター)に35年間勤め、1998年定年退職した。この間、森林保護、とくに樹木病害の研究を担当し、次長・所長として研究管理にも携わった。また、1990年から継続して今日まで、島根大学の非常勤講師・嘱託講師として「森林保護学」の講義を依頼されている。森林の自然にあこがれて大学では林学を専攻したが、山本昌木先生の植物病理学や安盛博先生の樹病学の講義を聞いて、この分野に魅せられて樹木病害の研究に入った。また、農林省林業試験場(現森林総合研究所)の伊藤一雄先生、小林享夫先生などから温かいご指導をいただいた。これらの先生方のご指導があって現在の自分があると思っている。1981年、「マツ類葉枯病の防除に関する基礎研究」で京都大学から農学博士号を取得し、この論文は1986年日本林学会(現日本森林学会)の「林学賞」を受賞した。一貫して島根県における各種樹木病害の被害調査、病因の究明、発生生態の調査および防除試験に従事した。取り扱ったおもな病害は苗立枯病、土壌線虫病、スギ赤枯病、マツ類の各種葉枯性病害、ヒノキペスタロチア病、ヒノキ漏脂病、マツ類材線虫病、緑化樹木の各種病害と多種類に及ぶ。その結果のほとんどは林業関係の学会や学術雑誌に発表した。定年退職後は自宅で研究を続けている。とくに、葉上に生じる藻類(*Cephaleuros*, *Phycopeltis*など)と地衣類の分類学的、生態学的な研究を島根大学教育学部の大谷修司先生と共同で行っていて、その結果は藻類学や地衣学の学会や学術雑誌に発表している。分子生物学などの新しい技術が植物病理学の進展に大きく寄与していることは言うまでもないが、まずは自分の足で野山を歩いて、自分の目で生の自然の姿を観察することを忘れてはならないと思う。

永年会員 土屋貞夫



1938年2月10日山形県生まれ、1960年3月山形大学農学部農学科を卒業、同年北海道立農業試験場本場(現北海道立中央農試)病虫部臨時職員、翌1961年研究職員となる。1961年に改姓(旧姓 花岡)した。1963年以降は道立農試を幾度か異動し、1989年中央農試病虫部長(兼北海道病害虫防除所長)、1997年3

月北見農試場長を最後に道職員を退職した。1997年4月から6年間北興化学工業株式会社札幌支店に参与としてお世話になった。2002年5月・7月の2回、NORPACのモンゴル農業開発支援プロジェクトの一員として参加した。1963年寒冷地草地酪農を背景とした根釧農試で1960年代に大発生したアカクロバ黒葉枯病について北農試の佐藤倫造氏、中央農試の成田武四氏らと共同研究の結果、本邦における新病害であることを明らかにした。また、1970年に十勝の畑作地帯でアズキ落葉病が大発生(栽培面積21,600haの66.1%に発生)したため、1971年からは十勝農試で当時上司だった赤井純科長の指導の下で本病の研究に取り組んだ。本病は典型的な土壌病害であり、本病菌の生態、なかでも土中でのアズキ残さ上での孢子形成量、孢子の土中生存期間、連輪作と菌量の増減、根部における感染機作等の解明に従事した。研究成果の一部は1976年帯広市で開催された第8回土壌伝染病談話会で発表した。また防除技術として有効な成果は随時生産現場に移された。1977年から上川農試において、水田転換畑で発生顕著なアズキ、ダイズの茎疫病について、発生要因の究明、病原菌の異同、菌の形態、生化学的性質、発生環境、抵抗性品種の検定、耕種的・化学的防除法等の研究に従事した。その後、アズキ茎疫病とその防除に関する研究成果が認められ、1989年北海道大学より農学博士号を授与された。本研究遂行等に当たって生越明教授はじめ、常に切磋琢磨し合いながらも労を惜しまず種々協力頂いた同研究室の児玉不二雄氏、田中文夫氏には感謝致しております。一方、学会活動では1996～'97年に北海道部会長と講演要旨編集委員を仰せつかった。本会会員各位にもご指導ご支援を頂き深く感謝申し上げます。

永年会員 与那覇哲義

与那覇先生におかれましてはお話などの執筆をご辞退されました。永年会員への推薦おめでとうございます。

(ニュース編集担当)

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係

米山勝美 H24.3 [退職 明治大学 農学部
植物病理学研究室 専任教授]

大里修一 H24.4 明治大学 農学部 植物病理
学研究室 専任講師

多賀正節 H24.4 岡山大学 自然科学研究科地
球生命物質科学専攻 教授

山次康幸 H24.7 東京大学 大学院農学生命科
学研究科 植物病理学研究室
特任准教授

中原健二 H24.8 北海道大学 農学部 育種工
学講座植物病原学分野 講師

中屋敷均 H.24.10 神戸大学 農学研究科 細胞
機能構造学研究室 教授

新屋友規 H25.1 岡山大学 資源植物科学研究
所 植物・昆虫間相互作用グ
ループ助教

雨宮良幹 H25.3 [退職 千葉大学 大学院園
芸学研究科 生物生産環境学
境域 教授] 千葉大学名誉
教授 (H25.4)

白石友紀 H25.3 [退職 岡山大学 環境生命
科学研究科 植物病理学研究
室 教授]

生井恒雄 H25.3 [退職 山形大学 農学部
植物病理学研究室 教授]
生井先生におかれましては、
2013年7月27日にご逝去さ
れました。謹んでご冥福をお
祈り申し上げます (ニュース
編集委員会)。

尾谷 浩 H25.3 [退職 鳥取大学 農学部
植物病学研究室 教授]

安藤杉尋 H25.4 東北大学 大学院農学研究科
植物病理学分野 准教授

大木 理 H25.4 大阪府立大学 生命環境科学
域 学域長

岡久美子 H25.4 鳥取大学 農学部附属菌類き
のこ遺伝資源研究センター
遺伝資源評価保存研究部門
助教

小林 隆 H25.4 山形大学 農学部 植物病理

学研究室 准教授

宍戸雅宏 H25.4 千葉大学 大学院園芸学研究
科 生物生産環境学境域 教
授

霜村典宏 H25.4 鳥取大学 農学部附属菌類き
のこ遺伝資源研究センター
有用きのこ栽培研究部門 教
授

成澤才彦 H25.4 茨城大学 農学部 微生物生
態学研究室 教授

渡辺京子 H25.4 玉川大学 農学部 植物病理
学分野 教授

白石俊昌 H25.5 東京大学 大学院農学生命科
学研究科 植物医科学研究
室 特任研究員

能年義輝 H25.4 岡山大学 環境生命科学研
究科 植物病理学研究室 准教
授

福田一徳 H25.6 東京大学 大学院農学生命科
学研究科 植物医科学研究室
特任講師

(2) 農水省関連独法関係

仲川晃生 H24.8 農研機構・連携普及部 連携
普及企画室長

山本 亮 H24.10 農研機構・総合企画調整部
企画調整室 主任研究員

植原健人 H24.10 農研機構・中央農研 病害虫
研究領域 主任研究員

田中 穰 H24.10 農研機構・九沖農研 作物開
発・利用研究領域 主任研究
員

笹谷孝英 H24.10 農研機構・九沖農研 生産環
境研究領域 主任研究員

一木珠樹 H25.1 農生資研・遺伝資源センター
分類評価研究ユニット 主任
研究員

島根孝典 H25.3 [退職 農研機構・果樹研
品種育成・病害虫研究領域
上席研究員]

築尾嘉章 H25.3 [退職 農研機構・花き研
究所 研究支援チーム長]

西尾善太 H25.4 農林水産省農林水産技術会議
事務局 研究専門官 兼大臣
官房 政策課

本蔵洋一	H25.4	農林水産省横浜植物防疫所 業務部生物検定担当 統括植 物検疫官	野津あゆみ	H25.4	技術センター 研究部生産環 境グループ 研究主任
佐々木厚子	H25.4	農研機構・総合企画調整部 研究戦略チーム 主任研究員			北海道立総合研究機構中央農 試病虫部予察診断グループ 研究主任
安田伸子	H25.4	農研機構・中央農研 病害虫 研究領域 主任研究員	杉山 悟	H25.3	[退職 青森県病害虫防除所 所長]
山内智史	H25.4	農研機構・中央農研 病害虫 研究領域 主任研究員	雪田金助	H25.3	[退職 青森県産業技術セン ター農産物加工研究所 所 長]
奥田 充	H25.4	農研機構・中央農研 病害虫 研究領域 主任研究員	荒井茂光	H25.4	青森県病害虫防除所 所長
富高保弘	H25.4	農研機構・中央農研 病害虫 研究領域 主任研究員	山下一夫	H25.4	青森県産業技術センター野菜 研究所 総括研究管理員病虫 部長事務取扱
八重樫元	H25.4	農研機構・果樹研究所 リン ゴ研究領域 研究員	福士好文	H25.4	青森県産業技術センターりん ご研究所 病虫部長
石川浩一	H25.4	農研機構・野茶研 茶業研究 領域 上席研究員	忠 英一	H25.4	青森県病害虫防除所 主幹
月星隆雄	H25.4	農研機構・畜草研 企画管理 部 研究調整役(那須担当)	岩間俊太	H25.4	青森県産業技術センター農林 総合研究所 研究管理員
眞岡哲夫	H25.4	農研機構・北農研 企画管理 部 業務推進室長	對馬由紀子	H25.4	青森県産業技術センター野菜 研究所 主任研究員
奈良部孝	H25.4	農研機構・北農研 生産環境 研究領域上席研究員	加賀友紀子	H25.4	青森県産業技術センター野菜 研究所 研究員
上田重文	H25.4	農研機構・北農研・畑作研究 領域 主任研究員	平山和幸	H25.4	青森県産業技術センターりん ご研究所 研究員
石黒 潔	H24.4	農研機構・東北農研 企画管 理部長	赤坂安盛	H25.4	岩手県中央農業改良普及セン ター 所長
園田亮一	H25.4	農環研 研究技術支援室長	大野 浩	H25.4	岩手県農業研究センター企画 管理部研究企画室 主任専門 研究員
河邊邦正	H25.4	国際農研・企画調整部 主任 研究員 同情報広報室併任	外館光一	H25.4	岩手県中央農業改良普及セン ター 上席農業普及員
中島一雄	H25.4	国際農研・生物資源・利用領 域 プロジェクトリーダー	猫塚修一	H25.4	岩手県南広域振興局花巻農 林振興センター農業振興課 主査
松田輝子	H25.4	種苗管理センター・業務調整 部 種苗検査課 主任調査員	近藤 誠	H25.4	宮城県農林水産部農産園芸環 境課環境保全班 技師
金杉あすみ	H25.4	農林水産消費安全技術セン ター 神戸センター	中村茂雄	H25.4	宮城県農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部 上席主任研究員
藤原裕治	H25.5	農林水産省 横浜植物防疫所 業務部 生物検定担当 統括 植物検疫官	猪苗代翔太	H25.4	宮城県農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部 技師
(3) 都道府県試験研究機関関係					
佐々木純	H25.4	北海道立総合研究機構北見農 試 研究部生産環境グループ 主査	山本英樹	H24.6	[退職 秋田県農業試験場
白井佳代	H25.4	北海道立総合研究機構花野菜			

		主任研究員]			産環境部病害虫研究課 課長
本田浩央	H25.4	山形県農林水産部農業技術環境課 安全農産物主査	岡本昌広	H25.4	神奈川県農業技術センター生産環境部病害虫研究課 主任研究員
阿部篤智	H25.4	山形県農林水産部農業技術環境課 主査	野村 研	H25.4	神奈川県農業技術センター普及指導部作物加工課 主査
佐藤健治	H25.4	山形県農林水産部病害虫防除所業務課 主任専門防除員	市川和規	H25.4	山梨県総合農業技術センター副所長
尾形 正	H25.3	[退職 福島県県北農林事務所伊達農業普及所 次長]	市川 健	H25.4	静岡県経済産業部振興局農林技術研究所 研究統括監
山田真孝	H25.4	福島県県中農林事務所田村農業普及所 主査	十亀美穂	H25.4	静岡県経済産業部管理局西部農林事務所企画経営課 技師
金田真人	H25.4	茨城県鹿行農林事務所経営・普及部門	万年潤哉	H25.4	静岡県企画広報部地域外交課 技師 (JICA 青年海外協力隊でソロモン諸島に派遣予定)
石川成寿	H25.3	[退職 栃木県農業試験場研究開発部病理昆虫研究室 研究統括監] H25.4 栃木県農業試験場研究開発部病理昆虫研究室 主任研究員 再任用	原澤良栄	H25.4	新潟県農業総合研究所企画情報部企画調整室 室長
山城 都	H25.4	栃木県農業試験場研究開発部病理昆虫研究室 主任研究員	森川千春	H25.4	石川県農林総合研究センター農業試験場総合研究部病害虫防除室 主幹
小林 誠	H25.4	栃木県農業試験場研究開発部病理昆虫研究室 主任	安達直人	H25.4	石川県農林水産部企画調整室企画グループ 専門員
白石俊昌	H25.3	[退職 群馬県農業技術センター 所長]	松崎聖史	H24.4	愛知県農業総合試験場企画普及部広域指導室 主任専門員
酒井 宏	H25.4	群馬県農業技術センター環境部発生子察係 係長	加藤順久	H24.4	愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室 主任専門員
鈴木 健	H25.4	千葉県農林総合研究センター生産技術部花植木研究室 室長	恒川健太	H24.4	愛知県農林水産部農業経営課環境植防グループ 技師
大谷 徹	H25.4	千葉県農林総合研究センター生産環境部病理昆虫研究室 主任上席研究員	宮崎暁喜	H25.4	岐阜県総合企画部研究開発課 主任研究員
竹内 純	H25.4	東京都農林総合研究センター研究企画室 主任研究員	渡辺秀樹	H25.4	岐阜県農業技術センター 主任専門研究員
星 秀男	H25.4	東京都小笠原支庁亜熱帯農業センター 所長	黒田克利	H25.4	三重県農業研究所農産物安全安心研究課 主幹研究員兼課長
菅原優司	H25.4	東京都農林総合研究センター生産環境科 研究員	金子 誠	H25.4	滋賀県農政水産部農業経営課 副主幹
小林正伸	H25.4	神奈川県農業技術センター生産技術部 部長	富家和典	H25.4	滋賀県農業技術振興センター 研究企画室 主査
三好 理	H25.4	神奈川県農業技術センター生産技術部野菜作物研究課 主任研究員	津田和久	H25.4	京都府農林水産技術センター農林センター環境部 主任研究員
折原紀子	H25.4	神奈川県農業技術センター生	木村重光	H25.4	京都府農林水産技術センター

		生物資源研究センター 副主査			援第一担当 課長補佐
東山みや子	H25.4	京都府農林水産部農産課 技師	米本謙悟	H25.4	徳島県立農林水産総合技術支援センター資源環境研究課 研究係長
相野公孝	H25.4	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター環境・病害虫部 部長兼病害虫防除所	三好孝典	H25.4	愛媛県農林水産部農産園芸課 主幹
前川和正	H25.4	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター環境・病害虫部 研究主幹	清水伸一	H25.4	愛媛県農林水産研究所果樹研究センター病理昆虫室 室長
西口真嗣	H25.4	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター環境・病害虫部 主席研究員	高橋尚之	H25.4	高知県須崎農業振興センター 農業改良普及課 課長
浅野峻介	H25.4	奈良県農業総合センター病害虫防除チーム 主任主事	竹内繁治	H25.4	高知県農業技術センター研究企画課 課長
島津 康	H25.4	和歌山県農業試験場 総括研究員兼栽培部長事務取扱	脇部秀彦	H25.3	[退職] 佐賀県上場営農センター 所長
増田吉彦	H25.4	和歌山県果樹試験場 副場長	田代暢哉	H25.4	佐賀県上場営農センター 所長
間佐古将則	H25.4	和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 主査研究員	松尾和敏	H25.4	長崎県病害虫防除所 所長
森本涼子	H25.4	和歌山県農林水産部食品流通課 主査	菅 康弘	H25.4	長崎県病害虫防除所 係長
池田晴佳	H25.4	和歌山県果樹試験場栽培部 研究員	小牧孝一	H25.4	熊本県農業研究センター農産園芸研究所 所長
伊達寛敬	H25.3	[退職 岡山県農林水産総合センター農業研究所 所長]	行徳 裕	H25.4	熊本県農林水産部生産局農業技術課 審議員
谷名光治	H25.4	岡山県農林水産総合センター農業研究所病虫研究室 室長	吉松英明	H25.4	大分県東部振興局農山漁村振興部 部長
白石友紀	H25.4	岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 所長	黒木 尚	H25.4	宮崎県農政水産部南那珂農林振興局農業経営課 主任技師
田村勝徳	H24.10	岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 作物分子育種研究グループ 流動研究員	尾松直志	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター 企画調整部普及情報課
角田佳則	H25.4	山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室 室長	西 八東	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター茶業部環境研究室
重田 進	H25.4	山口県農林総合技術センター農業研修部 副部長	尾川宜広	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター大島支場病害虫研究室
井上 興	H25.4	山口県農林水産部農業振興課農産班 主幹	中西善裕	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター企画調整部研究企画課
岡田知子	H25.4	山口県農林水産部農業振興課農業技術班 主任	富濱 毅	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター生産環境部病害虫研究室
広田恵介	H25.4	徳島農業支援センター農業支	福元智博	H25.4	鹿児島県農業開発総合センター果樹部環境研究室
			大城 篤	H25.4	沖縄県農業研究センター病虫管理技術開発班 主任研究員
			2. 学位取得者（課程博士・論文博士）		
			岩館康哉	H24.3	岩手大学 大学院連合農学研究科 博士（農学） 岩手県

- におけるキュウリホモブシス根腐病の発生生態と防除に関する研究
- 善正二郎 H24.9 秋田県立大学生物資源科学科 博士 (生物資源科学)
- 田中 徹 H24.9 岡山大学自然科学研究科 博士 (学術) ハイポウイルス多機能性タンパク質 p29 によるマイコレオウイルスゲノム再編成
- 林 諭听 H24.9 岡山大学自然科学研究科 博士 (学術) Characterization of novel viruses from the white root rot fungus using the natural and an experimental host (chestnut blight fungus)
- 福元智博 H24.9 鹿児島大学 大学院連合農学研究科 博士 (農学) パッションフルーツ東アジアウイルスの分子生態学的研究
- 桃井千巳 H24.9 名古屋大学 大学院情報科学研究科 博士 (情報科学) チューリップ花卉の青色発色に關与する鉄イオンの輸送と蓄積に関する研究
- 山際泰夫 H24.9 岡山大学自然科学研究科 博士 (農学) *Talromyces wortmannii* の生産するβカリオフィレンの植物生育促進作用と耐病性付与作用に関する研究
- Kusumawaty Kusumanegara H24.10 京都大学大学院農学研究科 博士 (農学) Functional analysis of p27 auxiliary replicase protein in RNA replication of Red clover necrotic mosaic virus
- 吉野香絵 H24.11 京都大学大学院農学研究科 博士 (農学) Studies on genes involved in infection mechanisms activated by plant recognition in *Colletotrichum orbic-
ulare*
- 天野政史 H25.3 岡山大学自然科学研究科 博士 (農学) 病原菌シグナルによる植物イオン変動の制御に関する研究
- 井上喜博 H25.3 神戸大学大学院 農学研究科 博士 (農学) コムギの炭疽病菌・いもち病菌に対する非宿主抵抗性の遺伝的機構
- 小川哲治 H25.3 鹿児島大学 大学院連合農学研究科 (佐賀大学配置) 博士 (農学) 本邦のジャガイモYウイルスの集団遺伝構造と弱毒ウイルスに関する研究
- 加藤大明 H25.3 名古屋大学大学院生命農学研究科 博士 (農学) Studies on generation and function of nitric oxide during defense responses in plant
- 草間勝浩 H25.3 横浜国立大学 大学院環境情報学府 博士 (環境学) 病害応答性 VSP1 遺伝子プロモーターの発現制御に関する研究
- 菅 康弘 H25.3 九州大学 農学研究院 博士 (農学) 日本産ジャガイモ青枯病菌の系統解析とその制御に関する研究
- 柴田裕介 H25.3 名古屋大学大学院生命農学研究科 博士 (農学) ナス科植物のジャガイモ疫病菌抵抗性関連遺伝子の探索とその機能解析
- 早川豪人 H25.3 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 博士 (生命科学) Beet severe curly top virus のウイルス鎖にコードされる遺伝子の発現活性化機構の解析
- 平山和幸 H25.3 岩手大学 連合農学研究科 博士 (農学) 子のう菌類の分類体系再構築に対するホロモルフからのアプローチ
- 前田一行 H25.3 明治大学 大学院農学研究科 博士 (農学) ムギ類赤か

- び病菌 *Fusarium graminearum* によるトリコテセン系かび毒の生合成と制御に関する研究
- 間瀬圭介 H25.3 名古屋大学大学院生命農学研究科 博士(農学) トマトアルターナリア茎枯病菌が誘導するAAL毒素細胞死におけるエチレンの関与について
- Marita Sanfuego Pinili H25.3 東京農業大学 大学院農学研究科 博士(国際農業開発学) Detection, diversity and control strategies of Musa viruses in Asia
- Monjil Mohammad Shahjahan H25.3 名古屋大学大学院生命農学研究科 博士(農学) Functional analysis of elicitors inducing ROS and RNS production in plant
- 森田雄一 H25.3 神戸大学大学院 農学研究科 博士(農学) ナシ黒斑病菌の感染器官における活性酸素種生成複合体の機能解析

3. 海外長期出張者

- 安藤杉尋 東北大学 (H25.9 ~ H26.3) ドイツ
アーヘン工科大学
- 井村喜之 日本大学 (H25.2 ~ H26.3) 米国 ケン
タッキー大学農学部植物病理学研究室

【今後の学会活動予定】

1. 平成25年度部会開催予定

- (1) 北海道部会
日時：平成25年10月17～18日
場所：かてる2.7 (札幌市)
- (2) 東北部会
日時：平成25年10月28～29日
場所：にぎわい交流館 (秋田市)
- (3) 関東部会
日時：平成25年9月12～13日
場所：法政大学市ヶ谷キャンパス (千代田区)
- (4) 関西部会
日時：平成25年9月26～27日

場所：岡山大学50周年記念館 (岡山市)

(5) 九州部会

日時：平成25年11月13日

場所：KKRホテル熊本 (熊本市)

2. 平成25年度談話会・研究会および教育プログラム開催予定

(1) 第9回植物病害の診断・防除教育プログラム

日時：平成25年8月5～9日

場所：筑波農林研究団地 農林水産技術会議事務局・筑波事務所 農林交流センター (つくば市)

(2) 平成25年度植物感染生理談話会

日時：平成25年8月19日～21日

場所：北陸粟津温泉 法師 (野々市市)

(3) EBC (Evidence-based Control) 研究会ワークショップ2013

日時：平成25年9月18日 12:30～17:30, 受付は12:00より。

場所：クミアイ化学工業株式会社 (台東区)

(4) 第7回植物病害診断研究会

日時：平成25年9月27～28日

場所：岡山大学津島キャンパス (岡山市)

【関連学会情報】

第28回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン—2013』のご案内

生産環境の変化と作物保護技術の再評価

趣旨：近年、生産者の高齢化や防除の省力化に対応するため、病害虫・雑草防除技術の高度化が図られ、また、環境負荷を低減する環境保全型農業の推進に伴い多様な技術が開発・普及されてきている。一方、温暖化や薬剤耐性の発現などによる防除効果の低下や、さらに、国内外における作物保護に対する考え方も変化してきている。本シンポジウムでは、作物保護技術を取り巻く現状について問題点を整理し、今後の技術開発・普及の方向性について討議する。

主催：公益財団法人 報農会

協賛：日本応用動物昆虫学会, 日本植物病理学会, 日本農薬学会, 日本雑草学会

日時：平成25年9月26日(木) 10:15～17:00

場所：「北とびあ」つつじホール (東京都北区王子1-11-1)

TEL 03-5390-1100(会場への連絡は出来ません)

JR 京浜東北線・地下鉄南北線：王子駅下車、
徒歩 2 分（下図参照）

- 開 会：10:15～10:30 挨拶 理事長 上路雅子
講 演：10:30～11:20 侵入雑草の防除対策
宇都宮大学・雑草科学研究セ
ンター 米山弘一
- 11:20～12:10 宮城県におけるイネばか苗病発
生の現状と防除対策の検討
宮城県古川農業試験場
鈴木智貴
- 13:20～14:10 育苗箱施薬の病害虫防除効果の
再評価
鹿児島県農業開発総合センター
井上栄明
- 14:10～15:00 EU における農薬事情
農薬工業会 横田篤宜
- 15:10～16:00 国内花卉（菊）の生産動向と課題
イングロ農材株式会社
古橋友雄
- 16:00～16:45 総合討論

参加費：一般 2,000 円 学生 1,000 円

申込み：参加をご希望の方は下記連絡先まで E メール
または FAX で所属・連絡先と氏名をお知らせ
下さい。当日、参加費と引き替えにテキストを
お渡し致します。

連絡先：公益財団法人 報農会

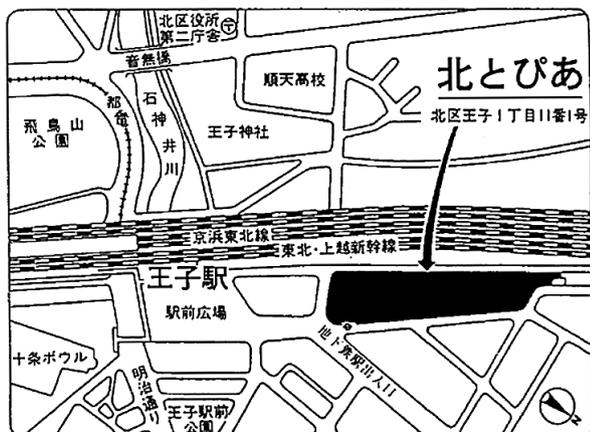
事務局 藤田肖子、渡辺敦子

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-846-105

サンウッド花小金井 101 号室

TEL/FAX 042-381-5455

E-mail: khono511@car.ocn.ne.jp



【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒114-00185 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-5980-0282

または下記学会ニュース編集委員へ：

高橋賢司、根岸寛光、有江 力、宇賀博之、芦澤武人
各委員宛

編集後記

学会ニュース第 63 号をお届けします。

本号は、今年度推挙された名誉会員・永年会員のご紹介と会員の人事異動が中心です。

新名誉会員・永年会員に選ばれた皆様の長年にわたる学会へのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、植物病理学、農林業振興、国際協力などにおける国内外での精力的なご活躍に対して敬意を表したいと思います。紹介文中で学会や植物病理学に対する期待や示唆に富むお言葉をいただきました。励ましのメッセージとしてしっかりと受け止めたいと思います。

会員の動静について掲載しました。今春も多くの方々の異動がありました。退職された会員の皆様、長い間大変お疲れさまでした。また、異動された皆様、新しいポストでのさらなるご活躍を祈念しております。学位を取得された皆様、おめでとうございます。海外に出張されている皆様、この機会を存分にご活用ください。皆様の今後の大いなるご活躍を期待しております。

学会活動の年内までの予定を掲載しました。部会や談話会・研究会など多くの集いが開催されます。学会が協賛する報農会シンポジウムも開催されます。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

創設 100 周年が再来年に迫りました。記念事業の準備が着々と進められています。100 周年記念事業に関する情報を本ニュースでもお知らせしたいと思います。

(高橋賢司)



JGPP 79(4) から、Reviews for the 100th Anniversaryの掲載を開始しました
2015年3月28日(土)100周年記念大会・シンポジウムを開催予定です(東京)
日本植物病理学会誌100周年記念誌(仮称)を発行します